

知覚動考

「誰一人取り残さない 子供が育つ学校づくり」

寒河江市立南部小学校
校長室だより
校長 白田 敏幸

「自分で考える力」と「社会を生き抜く武器」

教育の目的とは何でしょう？ちょっと難しい話になりますが、教育基本法第1条では、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」と規定してあります。わかりやすく言えば…

- ①一人ひとりの人格の完成
- ②国家・社会の形成者として必要な資質を備えた市民の育成ということになります。

このことから、教育には、2つの目的があると考えています。
1つ目は…

自分の頭で考える力を養うこと

⇒自分が感じたことや自分の意見を、自分の言葉ではっきりと表現できる力

2つ目は…

社会の中で生きていくための最低限必要な「武器」を与えること

【自分の頭で考え、自分の言葉で自分の意見を表現できるようになる】

なぜ、自分の頭で考えることが必要なのかと言えば、今後（もうすでに現在も）、社会や技術の進歩のスピードが速くなり、将来において何が起こるかわからなくなってきているからです。将来に起こることが今の延長線上にあるのであれば自分の頭で考えなくても対処できるかもしれませんが、しかし、数年先も見通すことが難しい状況になっています。

考える力を鍛えるためにはどうすればいいのか？様々な方法があるとは思いますが、まずは、人を真似ることから始めるのがいいのではと考えています。料理でも、まずはお手本となるレシピをもとに料理をすることで、自分好みの料理を作り上げていくことができます。ですので、人の真似をすることや、過去の人が体験し築き上げてきた知見を知るために本を読むことが大切だと思っています。これは、子供だけでなく、当然我々大人にも当てはまります。

また、「考えさせる機会（時間）」を子供に与えることも重要です。これには時間もかかりますし、**大人が待つという忍耐も必要になります。**自分で考え行動させた上で振り返らせる、これを根気強く繰り返すことが必要だと考えています。

【社会を生き抜くための武器】

社会を生き抜いていくために必要なこととは、①国家の基礎②政府の基礎③選挙の基礎④税金の基礎⑤社会保障の基礎⑥お金の基礎⑦情報の真偽を確かめる基礎（「教えるということ」 出口治明著 角川新書）であるという考え方があります。これらは、高校（大学）までに身に付ける力です。小学校において身に付ける（身に付けさせる）武器とは、「**基礎的な学力**」と「**自ら学ぶ力**」であると考えています。①については、これまで学校の役割として行ってきました。しかし、②については、それほど重く受け止められていなかったのではないかと考えています。ともすると、①の力を重要視するあまり、②の力がついていないどころか、削（そ）いでしまっている面があったのではないのでしょうか。学ぶべきことを「与える」ことにだけに重きを置くことで、本当に大切な「**学ぶ楽しさを味わわせる**」ことや「**学ぶ意欲を育む**」ことに目がいかない面があったのかもしれませんが。①と②、どちらが重要なのかではなく、①と②の力をバランスよく育んでいくのが、学校のみならず家庭においても重要なことだと考えています。

